



名寄市立大学の窓から

知への誘い

vol.95

新型コロナウイルスと保育と行事と 「また今度」が効かない世界を考える

保健福祉学部 社会保育学科 講師 及川 智博



新型コロナウイルス（以下、「コロナ」という）の感染拡大から半年以上が経ちました。私たち大人だけでなく子どもたちもまた、一定の対策のもとで、新しい日常を取り戻しつつあります。今回は、その子どもたちが暮らす現場の最前線にいる、保育者の皆さんに光を当てたいと思います。

全国の保育者を対象に、コロナの影響で保育にどのような課題が生じているかを尋ねるアンケート調査を実施しました。「あなたはコロナ禍以前と比べ、保育に難しさを感じるようになりましたか？」という質問に対し、半数以上が「そう思う・非常にそう思う」と回答されていました。では、現場ではどんな課題が生じているのでしょうか。

分析の結果、以下のことがわかりました。保育者の皆さんはコロナへの対策に相当な神経を費やしています。子どもたちとの生活をはじめ、保護者を含めた外部とのやりとりも同様です。保護者懇談会を中止したり、お迎えの滞在時間を短縮したりすることで、保護者との関わりが希薄になってきます。結果、保護者と保育に関して意思疎通をとることが難しく、長期的な保育の見通しを十分に立てづらい状況にあることがわかりました。

保護者をはじめとした外部との総意をもとに、見通しをもって行われる保育の代表格といえば『行事』でしょう。行事は、保育者・子ども・保護者が一同に参集して、みんなで子どもたちの成長を喜び合うものです。かつて、とにかく行事が多く、大人目線で対外的な見栄えを重視してしまう

「行事中心保育」が保育界で大きな問題になりました。その行事がコロナ禍で無くなるかと言うと、必ずしもそうではありません。延期したり、規模を縮小したりしつつ開催する施設が多くあります。では、子どもたちにとって行事は一体どんな意味を持っているのでしょうか。

私が調査したとある幼稚園では、年長になった子どものみ、運動会でよさこいソーランを踊ることができるといふ伝統がありました。運動会が近づいたある日、保育者から鳴子と法被が子どもたちに手渡されたときです。法被を羽織った瞬間、子どもたちから「うおー！」「げんきもりもりでてきそう！」といった歓喜の声が挙がりました。園舎のそこら中で踊り始める子もいました。それもそのはず、青空の下、保護者をはじめとした多くの観客の前で、大音量のソーラン節の中でよさこいを踊るお兄さん・お姉さんに、子どもたちはずっと憧れを抱いてきたのです。年長になった1年の間にしか経験できない世界が、子どもたちにあることを垣間見たシーンでした。皆さんにも、そうした一生に一度しかない出来事を前にしてワクワクした経験が、少なからずあるのではないのでしょうか。

ある保育者さんは「年長なのでできるだけいろいろなことを経験させてあげたいが、断念しなければいけないことも多い」と言います。全国の保育施設でクラスタが発生したという情報が飛び交う中、子どもたちの世界に「また今度」が効かないことを深く理解し、感染対策をしつつ、かけがえのない日常を紡いでいるのが保育者の皆さんです。市内外を問わず、子どもたちと保育者さんたちを見かけたら、ぜひ温かい声をかけていただければと思います。

名寄市立大学の令和元年度決算状況をお知らせします

収入		金額	支出		金額
運営経費	授業料・諸納付金	5億4,939万8千円	運営経費	人件費	10億7,601万3千円
	入学料・受験料	6,670万7千円		物件費・維持補修費・補助費等ほか	4億3,824万7千円
	一般会計繰入金	9億1,442万3千円		備品費等	1,368万2千円
	その他	6,817万5千円		運営経費支出計	15億2,794万2千円
運営経費収入計		15億9,870万3千円	設備投資	設備投資費	1億935万8千円
設備投資	国・道支出金	4,128万1千円		公債費（償還金）	1億6,459万2千円
	一般会計繰入金	1億2,766万9千円		設備投資支出計	2億7,395万円
	その他	1億500万円	支出合計額	18億189万2千円	
設備投資収入計		2億7,395万円	積立金		金額
収入合計額		18億7,265万3千円	今後の大学運営のため(寄附、利子積立)		7,076万1千円
			積立金合計額		7,076万1千円

◆問い合わせ 名寄市立大学事務局総務課 ☎01654②4194